

おわりに

本研究の実践では、資料の活用をもとにした言語活動を取り入れた「日本史B」の指導の工夫に取り組んだ。各事例の成果や課題から、次のような指導が授業改善の方策として有効であったことがわかる。生徒の実態に合わせて、各事例をアレンジしたり考え方を参考にしたりして御活用いただければ幸いである。

1 生徒の興味・関心を高める工夫

各事例のところで紹介したように、資料を活用する学習を行うことで、生徒の学習内容に対する理解が深まったり、歴史に対する興味が高まったりするという成果が出た。**事例1**で紹介した「教科書をただ読み覚えるよりも自分たちで調べていくことでより自分の頭で考えてから覚えることで頭の中に残り、理解度が全く違うと思いました。」という生徒の感想や、**事例2**で紹介した「自分で考えるという事で、教科書を読むだけの授業よりも理解ができた。」などの生徒の感想から、資料を活用する学習が、生徒の学習内容に対する興味・関心を高めたことがわかる。また、資料に関しては、**事例1**のように複数の資料を関連付けたり、**事例2**のように絵画資料を活用するなど、生徒の思考を促したり、興味・関心を高めたりするものであることが必要であろう。

2 グループ学習を取り入れる

各事例で行った授業後のアンケートを見ると、友人と協力して調べたり、話し合ったりすることを評価する内容のものが多かった。資料を単に読み取るのではなく、**事例1**のように複数の資料を関連付けたり、**事例2**のように資料から抱いた疑問について調べたりする活動、**事例3**のように原文を解読したりする活動は、グループ内での協力があって可能となった。このように、資料を効果的に活用するにはグループ学習を取り入れることが必要であろう。ただし、**事例2**で述べたように、グループ学習を展開する中で、個々の生徒が抱いた疑問が生かされないという課題もあることから、個別学習とのバランスに留意することや個々の生徒の疑問に対する教師のフォローも必要である。

3 発表の場を取り入れる

今回の実践では、全ての事例で発表の時間を設けた。限られた授業時数の中では、個人や一つのグループが調べて得られる情報には限界がある。しかし、学習の最後に発表の時間を設けることで、それぞれの生徒が様々な情報を得ることができ、その時代や事象に対する多面的・多角的な見方を持てるようになる。また、発表に向けて調べた内容を整理したり、わかりやすい資料を作成したりするなどの活動によって、調べた内容の理解を一層深めさせることができる。

4 通史的な学習内容との関連を図る

日本史Bにおける歴史を考察し表現する学習については『高等学校学習指導要領解説 地理歴史編』に「指導計画の作成に当たっては、この歴史を考察し表現する学習を単発的・トピック的な学習に終わらせず、通史的な学習内容とかがわらせて実施するとともに」と書かれている。今回の事例も全て通史的な学習内容と関連するものである。

資料を活用して課題を追究・探究する学習には時間がかかる。しかし、各事例の生徒の感想に見られるように、学習内容に対する理解が深まったり、興味・関心が高まったりする効果がある。このことから、通史的な学習内容と関連する題材でこうした学習を計画的に行うことが必要である。

5 学校図書館や図書資料を活用する

事例1と**事例2**では、学校図書館を活用したグループ学習を取り入れた。学習指導要領の「各科目にわたる指導計画の作成と内容の取扱い」には「情報を主体的に活用する学習活動を重視するとともに」とあり、そのために「各種の統計、年鑑、白書、画像、新聞、読み物その他の資料を取

集・選択し、それらを読み取り解釈することなどの学習活動を取り入れること」とある。**事例1**と**事例2**では、生徒が資料から得た課題や疑問の解決のために、図書資料を積極的に活用する様子が見られた。豊富な図書資料の中から必要なものを探索し、情報を収集する活動を繰り返し行う事で、生徒の情報を主体的に活用する能力を養うことができると考えられる。

高等学校における教科指導の充実
地 理 歴 史 科
言語活動を取り入れた「日本史B」の指導

発 行 平成23年3月

栃木県総合教育センター 研究調査部

〒320-0002 栃木県宇都宮市瓦谷町1070

TEL 028-665-7204 FAX 028-665-7303

URL <http://www.tochigi-edu.ed.jp/center/>